

タイ国ラタナコーシン王朝200周年の記念出版物

吉 川 利 治*

Publications in Commemoration of the "Rattanakosin Bicentennial, 1982, Thailand"

Toshiharu YOSHIKAWA*

About one hundred books and journals have been published in commemoration of the "Rattanakosin Bicentennial 1982" in fields like history, arts, archaeology, literature, custom and tradition. All of them emphasize the glorious history of the Chakri dynasty and its capital, Bangkok, and the traditional Thai culture. It is also noteworthy

that some of the publications include beautiful colour pictures of the interior of the Chakri palace, never before published. These books and pictures help us to understand the cultural background of the Chakri dynasty and the Thai people.

は じ め に

1982年はタイ国の現ラタナコーシン王朝が誕生して200年になる。1982年4月には、首都バンコクでは国王夫妻臨席のもとで盛大な祝賀儀式が催された。タイ国政府が編成した「ラタナコーシン200年祭実行委員会」は、各種行事とともに、ラタナコーシン王朝200年の発展の軌跡を示す、芸術、文学、風俗習慣、歴史などに関する記念出版物を刊行することになっていた。刊行の仕事は、芸術局、国家文化委員会事務局、シンラパコーン大学、宮内局、タイ国観光機構に委託され、14種の記念出版物が計画された。それらを列挙すると、

〔芸術局の編集担当〕

1. 『ラタナコーシン王朝を慶賀する詩集
当選作』 (出版部数) 20,000部
2. 『ラタナコーシン王朝を慶賀する詩集
入選作集』 20,000部
3. 『ラタナコーシン王朝の建造物保存に
関する記録』 20,000部
4. 『ラタナコーシン王朝案内』
タイ語版 20,000部
英語版 10,000部
5. 『ラタナコーシン王朝絵画集』
10,000部
6. 芸術・文化叢書全8巻
- 6.1. 『ラタナコーシン王朝の言語と文学』
5,000部
- 6.2. 『ラタナコーシン王朝の慣習と文化』
5,000部
- 6.3. 『ラタナコーシン王朝の寺院』
5,000部
- 6.4. 『ラタナコーシン王朝の工芸』

* 大阪外国語大学タイ・ベトナム語学科; Thai & Vietnamese Department, Osaka University of Foreign Studies, 2734 Aomadani, Minoo City, Osaka 562, Japan

- 5,000部
- 6.5. 『ラタナコーシン王朝の旧蹟と記念建造物』 5,000部
- 6.6. 『ラタナコーシン王朝のタイ舞踊・音楽』 5,000部
- 6.7. 『ラタナコーシン王朝の歴史写真集』 5,000部
- 6.8. 『ラタナコーシン王朝の美術』 5,000部
7. 『ラタナコーシン王朝史』全3巻
第1巻 ラーマ1世～ラーマ3世 20,000部
第2巻 ラーマ4世～1932年 20,000部
第3巻 1932年～現代 20,000部
〔国家文化委員会事務局の編集担当〕
8. 『国王に関する行事遂行の方法』 80,000部
〔シンラパコーン大学の編集担当〕
9. 『ラタナコーシン王朝の美術品写真集』 10,000部
10. 『ラタナコーシン王朝の建築写真集』 10,000部
〔宮内局の編集担当〕
11. 『チャクリー王家の国王と国民との写真集』 10,000部
12. 『国王御構想企画図集』
タイ語版 10,000部
英語版 10,000部
13. 『ラタナコーシン王朝重大事件写真集』 50,000部
〔タイ国観光機構の編集担当〕
14. 『ラタナコーシン王朝名所案内パンフレット』
タイ語版 80,000部
英語版 70,000部
日本語版 40,000部
ドイツ語版 25,000部
フランス語版 25,000部
アラビア語版 20,000部
スペイン語版 20,000部

委員会が計画した通り全て順調に刊行されたのではなさそうである。例えばタイ国観光機構が刊行することになっている『ラタナコーシン王朝名所案内パンフレット』日本語版は、あれば日本人観光客にとって格好のバンコク案内書となるのに、バンコク市内でみかけたこともないし、出版されたという話も聞かない。企画のうちの半数近くは企画倒れなのか、あるいはこれから出版されるのか、少なくとも1982年9月にはみることができなかった。しかし、芸術局が出版する芸術・文化叢書全8巻は、1982年9月までに全部刊行された。この叢書はカラー写真をふんだんに使用していて、カメラ・アングルやピントの確かさで美しさを捕え、タイ国での写真技術、印刷技術の水準の高さを示し、いままでタイ国で印刷出版された最も華麗な叢書といえよう。ほかに、政府機関として宝くじ局が、王宮内のエメラルド仏寺院の回廊壁画「ラーマキエン」を全部カラー写真で収めた写真集を、前年に出版している。

ラタナコーシン王朝200年を記念して調査研究を企画した機関に、チュラーロンコーン大学がある。チュラーロンコーン大学はバンコク市の発達を科学的学術的に調査分析することを目的とし、大学が擁する学者を動員して、主に地理、建造物に関する調査にあたった。成果はバンコク市を中心とした王宮、寺院、運河、家屋、市場の5巻にまとめられ、写真を添えた充実した内容は、バンコク史を知るうえでの、欠かせぬ文献資料となっている。

この出版物目録にあげた書籍・資料は、述べた記念刊行物はもちろん、民間の出版社・書店で、ラタナコーシン王朝200周年を記念して出版されたものを集めた。1982年にはさまざまな書籍が出版されているが、その中で、「ラタナコーシン200周年記念」とか、冠をかぶった男ふたりが向かい合って合掌してい



写真1 ラタナコーシン王朝200周年のシンボル・マーク。バンコク市内に貼られているシンボル・マークは、英文のところがタイ文になっている

るシンボル・マークを表紙に配しているとか、書名に「200年」あるいは「ラタナコーシン」ということばを入れた、「ラタナコーシン200周年」を意識した刊行物を集めた。出版年は1982年に限らず、1981年に出版されたものもある。ここにあげた書籍・資料は主に1982年8-9月の2カ月間に蒐集したものであり、その後に刊行されたものは含まれていないが、まだ出版される模様である。単行本以外に大学の研究雑誌が特集号を組んでおり、特集号に載った論文名を紹介した。また記念英文刊行物をもあげた。

ラタナコーシン王朝200周年を記念して刊行された書籍・資料の内容の特徴は、「王朝」、「バンコク」、「伝統文化」の3語でいい表わすことができる。さらに「王朝」は「宮」^{みや}、

「バンコク」は「都」^{みやこ}、伝統文化は「雅」^{みやび}といいかえることが可能である。「宮」は日本語の意味と同様に、王家を指すのみならず、王宮にしつらえられた信仰対象とその信仰体系をも意味する。今度のラタナコーシン王朝200年祭行事で、王宮内に祭祀されている神像が、初めて一般公開され、刊行物の中でも紹介されている。ともあれ今回の刊行物により、宮殿の奥深くまでカメラが入り、写し出された宮中の配置や宮殿の陳列物、絵画、装飾から、王宮内の雰囲気のみならず王宮内で築かれてきた文化、世界観を窺うことができそうである。「都」としては、今回の記念祭がバンコクだけで開催され、地方の都市はほとんど全く参与していない。いみじくも、チュラーロンコーン大学が刊行した5冊の叢書は、全て「バンコク」のことがらに終始して、他地方は全く対象になっていない。民間の出版物にも特にバンコクの歴史的発展を語るものが多いが、えてして王宮や寺院仏閣、名所を語るものが多く、泥海に忽然として出現した都に、いつのころ、どこから、いかなる民族が、どれほどの人数で移住してきて、バンコクに何を残したか、バンコク住民のルーツを語るものは意外にない。「雅」としては、王宮を中心にバンコクで育まれてきた美術、工芸、絵画、建築、舞踊、演劇、音楽、詩歌に及び、従来未公開であった美術品や工芸の数々も紹介されている。タイ国を代表する伝統文化が、タイ国の各地の文化を吸収し、さらに近隣諸民族の文化や西洋文化をも取り入れて、多彩さと華麗さを増し続けてきたことを、個々の作品の中に窺うことができる。

この出版目録は、まずタイ国政府が組織した「ラタナコーシン200年祭実行委員会」が企画刊行した叢書・単行本、次いで政府機関の刊行図書、その後にチュラーロンコーン大学の叢書、タンマサート大学、チュラーロン

コーン大学刊行の研究報告書類，そして民間の出版社・書店の書籍，英文刊行物とし，最後に特集号機関誌という配列順にし，民間書籍は著者名をタイ文字のアルファベット順に配列した。

I 政府機関刊行物

1. กองจดหมายเหตุ กรมศิลปากร, “ศิลปวัฒนธรรมไทย เล่มที่ ๑ สมุดภาพประวัติศาสตร์ กรุงรัตนโกสินทร์,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 270pp.

『タイの芸術・文化 第1巻 ラタナコーシン王朝の歴史写真集』 ラタナコーシン王朝200年を，残存する絵画と珍しい写真で綴る。写真説明はタイ・英対訳。

2. ———, “ศิลปวัฒนธรรมไทย เล่มที่ ๒ ภาษาและวรรณคดี กรุงรัตนโกสินทร์,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 360pp.

『タイの芸術・文化 第2巻 ラタナコーシン王朝の言語と文学』 タイ語の変遷，外国語との接触，文学史上の特徴，各種韻文について，おのおの分担執筆。タイ語，タイ文学の文献目録が付されている。

3. ———, “ศิลปวัฒนธรรมไทย เล่มที่ ๓ ขนบธรรมเนียมประเพณีและ วัฒนธรรม กรุงรัตนโกสินทร์,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 320pp.

『タイの芸術・文化 第3巻 ラタナコーシン王朝の慣習と文化』 服装，食事，礼儀作法，通過儀礼，年中行事，王室儀礼，慣習に関する問題を述べる。

4. ———, “ศิลปวัฒนธรรมไทย เล่มที่ ๔ วัดสำคัญ กรุงรัตนโกสินทร์,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 296pp.

『タイの芸術・文化 第4巻 ラタナコーシン王朝の主要寺院』 各王の菩提寺，国王が建立した寺院，国王が修復した寺院，王族・貴族が

建立した寺院，王族・貴族が修復した寺院に分類し，各寺院の特徴，由来，内部の特色について解説。

5. ———, “ศิลปวัฒนธรรมไทย เล่มที่ ๕ ศิลปวัตถุ กรุงรัตนโกสินทร์,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 486pp.

『タイの芸術・文化 第5巻 ラタナコーシン王朝の工芸』 ラタナコーシン王朝が生み出した名品の数々を，仏像，神像，漆器，経蔵庫，木彫り品，玉座，陶磁器，織物，金銀細工，象牙細工，象嵌細工，人形，仮面，影絵，武器等等に分類し，一部カラーを含む写真で示しながら解説。解説は分担執筆。近隣諸民族の文化を吸収しつつ，タイ風に工夫されている姿がよくわかる。

6. ———, “ศิลปวัฒนธรรมไทย เล่มที่ ๖ ศิลปกรรม กรุงรัตนโกสินทร์,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 100pp.

『タイの芸術・文化 第6巻 ラタナコーシン王朝の美術』 寺院壁画，うるしや螺鈿細工による寺院扉や経蔵庫に描かれた文様・絵画，各種絵画，文様，木彫り，浮彫り，仮面劇の仮面，影絵芝居の影絵，これらの作り方，特徴をカラー写真で解説。

7. ———, “ศิลปวัฒนธรรมไทย เล่มที่ ๗ นาฏดุริยางค์ศิลป์ไทย กรุงรัตนโกสินทร์,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 158pp.

『タイの芸術・文化 第7巻 ラタナコーシン王朝のタイ舞踊・音楽』 タイ国の音楽の特徴を述べ，楽器，楽団編成を紹介。モン式楽器や西洋音楽の影響を解説。また，タイ国の仮面劇，歌劇以外に近隣諸国の舞踊を取り入れて，洗練された舞踊の衣裳やスタイルをカラー写真で紹介。影絵芝居の形式，特徴を分類し，カラー写真で紹介。さらにタイ国の人形劇も紹介する。

8. ———, “ศิลปวัฒนธรรมไทย เล่มที่ ๘ โบราณสถานและอนุสาวรีย์ กรุงรัตนโกสินทร์,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 158pp.

- 『タイの芸術・文化 第8巻 ラタナコーシン王朝の名所旧蹟と記念建造物』 各所の宮殿、寺院、記念塔がカラー写真入りで、その由来、特徴が解説されている。
9. ———, “นำชมกรุงรัตนโกสินทร์” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 332pp.
『ラタナコーシン王朝案内』 カラー写真と解説で、バンコク市内の宮殿を紹介。写真の美しさと印刷技術の高さを示す豪華本。
 10. กรมศิลปากร, “จดหมายเหตุการบูรณะปฏิสังขรณ์วัดพระศรีรัตนศาสดาราม และพระบรมมหาราชวัง ในการฉลองพระนครครบ ๒๐๐ ปี พุทธศักราช ๒๕๒๕ ภาคที่ ๑ วัดพระศรีรัตนศาสดาราม” คณะกรรมการอำนวยการปฏิสังขรณ์วัดพระศรีรัตนศาสดาราม และพระบรมมหาราชวัง, ๒๕๒๕, 318pp.
『バンコク誕生200年を祝してエメラルド仏寺院および王宮の修復に関する記録 仏暦2525年第1部 ワット・プラシーラタナサートサダーラム (エメラルド仏寺院)』 全部で4部からなるうちの第1部である。従来、エメラルド仏寺院や王宮を修復した場合、将来のために逐一修理箇所を記録してきたので、今回も過去の記録を全て調査し、破損箇所を修復、現代の技術で補強した点を記録した報告書である。
 11. สำนักงานสลากกินแบ่งรัฐบาล, “จิตรกรรมฝาผนังเรื่องรามเกียรติ์รอบพระระเบียงวัดพระศรีรัตนศาสดาราม” สำนักงานสลากกินแบ่งรัฐบาล, ๒๕๒๔, 402pp.
The Ramakien (Rāmāyana) Mural Painting along the Galleries of the Temple of the Emerald Buddha, The Government Lottery Office, 1981. まずラーマ1世御作の『ラーマキエン』のストーリーと登場人物を紹介し、エメラルド仏寺院回廊のラーマキエン壁画を1枚につき2ページにわたりカラー写真で載せ、タイ語で壁画に示された詩句に、タイ語説明と英文説明をつける。詩句を除き、全てタイ語・英語対訳。写真は全部カラー撮影。作詩者の氏名を末尾に列挙。タイ国の写真技術と印刷技術の粋をみせた刊行物。1983年に再版された。
 12. นงเยาว์ กาญจนจारी (รวบรวม), “พระมหากษัตริย์ในพระบรมราชจักรีวงศ์กับประชาชน” คณะกรรมการจัดงานสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี, ๒๕๒๕, 286pp.
The Chakri Monarchs and the Thai People: A Special Relationship. カラー写真を用いて、バンコクと王宮、王室と国民との結びつきを説明する。絶対王制から立憲君主制への移行で、ラーマ7世文書、ラーマ7世の憲法草案および退位宣言の原文を写真で示しながら、王室の側からの働きがあったことを説く。特に現国王は国民のよりよい生活のため、チットラダー御所に農業改良実験場を設置、王室をあげて辺地の医療普及に努力している姿を写真で紹介。カラー写真で紹介されたチャクリー宮殿の豪華絢爛たる内部は、一般に公開されたことがなく、室内の装飾や配置などは、王家の世界観を知うえで、また美術史上、貴重である。写真説明、本文説明はタイ語・英語対訳になっている。
 13. สำนักงานคณะกรรมการวัฒนธรรมแห่งชาติ, “แนวทางการจัดกิจกรรมที่เกี่ยวกับพระมหากษัตริย์” คณะกรรมการจัดงานสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี, กระทรวงศึกษาธิการ, ๒๕๒๕, 66pp.
『国王に関する行事遂行の方法』 国王誕生日、国王からの勲章の受取り方、地方での王室行事、国王の行幸の出迎え方、国王の写真の扱い方、王族や大僧正に対する敬礼の仕方、国王像、写真を飾って行う行事の進行の仕方、飾りつけの配置を図示して説明。

14. แสงโสม เกษมศรี, วิมล พงศ์พิพัฒน์, “ประวัติศาสตร์รัชกาลที่ ๑-๓ พ.ศ. ๒๓๒๕ - พ.ศ. ๒๓๙๔ เล่ม ๑,” คณะกรรมการจัดงานสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี, กองจดหมายเหตุ กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 314pp.

『ラタナコーシン王朝史 ラーマ1世～ラーマ3世 仏暦2325-2394年 第1巻』 ラタナコーシン王朝初期70年間を、対ビルマ戦争、ベトナム、カンボジア関係、国家の膨張、政治・経済・社会の発達、芸術・文学・仏教の発展、対外関係に分けて概説。王朝年代記を整理。

15. กองจดหมายเหตุแห่งชาติ, “สมุดภาพวิวัฒนาการแต่งกายสมัยกรุงรัตนโกสินทร์,” กองจดหมายเหตุ กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 143pp.

『ラタナコーシン王朝時代の服装変遷写真集』 19世紀以降の王侯貴族を主とした、服装の変遷を写真で示す。特に、女性の服装、髪型が中心。

16. วรณดี สรรพจิต, “กวีนิพนธ์เฉลิมเกียรติกรุงรัตนโกสินทร์ ฉบับชนะการประกวด,” คณะกรรมการจัดงานสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี, กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 215pp.

『ラタナコーシン王朝を慶賀する頌詩 当選作』 ラーマ1世よりラーマ9世の各王の業績をたたえた詩集。ラタナコーシン王朝200年を記念して募集した頌詩コンテスト当選作。各王が用いた印章とその意味、由来が解説されており、カラー写真を挿入。

17. กรมธนารักษ์, “เหรียญที่ระลึก กรุงรัตนโกสินทร์ พ.ศ. ๒๓๒๕-๒๕๒๕,” กรมธนารักษ์, กระทรวงการคลัง, ๒๕๒๕, 272pp.

『ラタナコーシン王朝の記念硬貨 仏暦2325-2525年』 200年間となっているが、1870年以降

の記念硬貨、メダルがカラー写真で見開きの片面に紹介。ラタナコーシン王朝200周年の記念メダルは、エメラルド仏像を浮彫りにした金・銀・銅の3種のメダルになっている。

II 大学関係刊行物

18. เกียรติ จิระกุล ฯลฯ, “ตลาดในกรุงเทพมหานคร: การขยายตัวและพัฒนาการ,” จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 440pp.

Market in Bangkok: Expansion and Development. バンコクとその周辺の市場と人口の関係、立地条件、取扱商品およびバンコクの代表的市場の形態をその配置図、立面図、写真を豊富に用いて解説。

19. เนตรนภิศ นาควัชร, ปิยนาด บุณนาค, จุฬหัตน์ พยามรานนท์, “วัดในกรุงเทพมหานคร: การเปลี่ยนแปลง ในรอบ ๒๐๐ ปี พ.ศ. ๒๓๒๕ - ๒๕๒๕,” จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 401pp.

Buddhist Temples in Bangkok (1782 A.D. - 1982 A.D.). バンコク市内の寺院の建立の時期を各王の治世ごとにまとめ、寺院の広さ、人口との関係、僧侶の人数、寺院建築の構成、寺院の役割・機能、寺院をめぐる環境の変化を過去から現在まで概観し、今日の問題をも取りあげている。カラーを含む写真と図表を豊富に用いている。

20. แนน้อย ศักดิ์ศรี, ณพิศร ภฤตติกากุล, ตรุณี แก้วม่วง, “พระราชวังและวังในกรุงเทพ พ.ศ. ๒๓๒๕ - ๒๕๒๕,” จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 583pp.

Palaces and Royal Residences in Bangkok (1782 A.D.-1982 A.D.). チャクリー王宮内の宮殿の配置、各宮殿の建設時期、特色、各王とその王子の宮殿と御所を、その名称、歴史、特徴をカラーを含む写真、図面で解説。

21. ปิยนาด บุนนาค, ดวงพร นพคุณ, สุวัฒนา ธาตานิติ, “คลองในกรุงเทพฯ: ความเป็นมาการเปลี่ยนแปลง และผลกระทบต่อกรุงเทพฯ ในรอบ ๒๐๐ ปี (พ. ศ. ๒๓๒๕-๒๕๒๕),” จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 309pp.
Canals in Bangkok: History, Changes and Their Impact (1782 A. D.-1982 A. D.). 200 年間のバンコク市内および周辺地域の運河開削の歴史を, 地図, 図表, 写真を用いながら解説。特に各運河の名称, 開削者, 開削時期・目的・区間・資金・長さ・幅・水深・備考, また運河にかかる橋についても, 公文書を資料に, 各国王の時代ごとに表にまとめて便利である。また, バンコク地域の運河をめぐる今日の問題をも検討している。
22. ผุสดี ทิพทัส, มานพ พงศทัต, “บ้านในกรุงเทพฯ: รูปแบบและการเปลี่ยนแปลงรอบ ๒๐๐ ปี (พ. ศ. ๒๓๒๕-๒๕๒๕),” จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 450pp.
Houses in Bangkok: Characters and Changes during the Last 200 Years (1782 A. D.-1982 A. D.). バンコクへの移民の歴史とその居住区, 各移民が建築した代表的家屋の特徴, 特に現在残存する古い家屋を, カラーを含む写真や図面を用いて解説。現代家屋の典型をも写真と図面で紹介している。
23. กนก วงศ์ตระหง่าน, “การเกิดและการขยายเมืองกรุงเทพฯ: การศึกษาทางการเปลี่ยนแปลง,” สถาบันไทยคดีศึกษา มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, ๒๕๒๕, 26 pp. (Mimeo.)
『バンコク市の誕生と拡大: 変遷の研究』 バンコクの拡大を人口と国際資本主義という観点から説こうとした研究報告書。
24. กัลยา ทิงศภทัย, อมรา ประสิทธิ์รัฐสินธุ์, “การใช้คำเรียกขานในภาษาไทย สมัยกรุงรัตนโกสินทร์ (การศึกษาคำขึ้นต้นในพระราชหัตถเลขาและจดหมายราชการ),” โครงการไทยศึกษา จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 71pp. (Mimeo.)
『ラタナコーシン王朝のタイ語における呼称名詞の用法 (勅書および公文書における前文の研究)』 ラーマ 4 世以来, 勅書や公文書で相手を呼ぶ時, どのように呼び, また書簡の前文をどのような語で表現したか, 各時代の例をあげて研究した報告書。
25. บุญผญา สุวรรณมาศ, “การสร้างบ้านแปลงเมืองรัตนโกสินทร์ กรุงเทพฯ: โครงสร้างเมืองทางด้านประโยชน์ใช้สอย ๒๓๒๕-๒๕๒๕,” สถาบันไทยคดีศึกษา มหาวิทยาลัยธรรมศาสตร์, ๒๕๒๕, 30pp. (Mimeo.)
『ラタナコーシン王朝における都市の形成 バンコク: 交易都市の構造 2325-2525』 バンコクの歴史的発展をいくつかの時期に分け, その特徴をあげる。特に交易都市としての特徴に注目する。
26. พุพิศ อมาตยกุล ฯลฯ, “ประวัติและผลงานของศิลปินเพลงไทยในรอบ ๒๐๐ ปีแห่งกรุงรัตนโกสินทร์,” โครงการไทยศึกษา จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 42pp. (Mimeo.)
『ラタナコーシン王朝 200 年間のタイ歌曲の芸術家の経歴と業績 (タイ歌謡芸術家名鑑)』 タイ歌曲の作詞家, 作曲家, 演奏家のグループに分け, 氏名を整理列举。
27. สมเกียรติ วันทะนะ, “วิวัฒนาการชิ้นแรงงานไทยเค้าโครงประวัติศาสตร์

แรงงานครบรอบสองร้อยปี.” สถาบัน-
ไทยคดีศึกษา มหาวิทยาลัยธรรม-
ศาสตร์, ๒๕๒๕, 110pp. (Mimeo.)

『タイ労働者階級の変遷 200年にわたる労働
力の歴史的構造』 マルクス主義の立場からタ
イ労働者階級の形成を探る。200年間というよ
り、19世紀末から現代にいたる100年間の変遷
を追った研究報告書。

28. สุเอ็ด คชเสนี, สุจริตลักษณ์ ติณฺฑง,
“บทบาทในด้านสังคม, วัฒนธรรมและ
การเมืองของชนกลุ่มน้อย ในกรุงรัตน-
โกสินทร์ ความเป็นมาและความเปลี่ยนแปลง
ในรอบ ๒๐๐ ปี: มอญ,” โครงการ
ไทยศึกษา จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย,
๒๕๒๕, 31pp. (Mimeo.)

『ラタナコーシン王朝における少数民族の文化
と政治 モン族: 200年における推移と変遷』
トンブリー王朝以来バンコク周辺に移民してき
たモン族の歴史と現況を探りながら、モン族の
移民が官界で果たしてきた役割、また仏教界、
音楽界に与えた影響を研究した報告書。

Ⅲ 民間の刊行物

29. “กรุงเทพฯ ๒๐๐ ปี,” เมืองโบราณ, 18pp.
『バンコク 200年』 19世紀末期のバンコクを
写した写真17葉を紹介。
30. กฤษณา เกษมศิลป์, “นาลันทาแห่งกรุง-
สยาม หรือ มหาธาตุ ๒๐๐ ปี,” มูลนิธิ-
ศิษย์มหาธาตุยุวราชรังสฤษฎิ์, ๒๕๒๕,
168pp.
『シャム国のナーランダー マハータートの
200年』 バンコクで最古の寺院ワット・マハ
ータートの歴史を軸に、三蔵経の結集、仏教の
学習・教育、仏教大学設立のいきさつを概説。
31. โครงการจัดพิมพ์หนังสือและตำราประ-

กอบการเรียนจากวิทยานิพนธ์ของ
บัณฑิตวิทยาลัย จุฬาลงกรณ์มหาวิทยา-
ลัย (รวบรวม), “๒๐ ทศวรรษรัตนโก-
สินทร์: รวบรวมบทความวิเคราะห์เหตุ-
การณ์สำคัญในช่วง ๒๐๐ ปีของกรุง-
รัตนโกสินทร์,” อักษรเจริญทัศน์,
๒๕๒๕, 241pp.

『ラタナコーシン 2 世紀: ラタナコーシン王朝
200年間の重大事件を分析した論文集』 チュラ
ーロンコーン大学文学部の修士論文から、9 篇
選んでダイジェストして紹介。ラーマ 1 世〜ラ
ーマ 9 世に至る歴史の諸相を取りあげた論文が
多いが、タイ語に関する論文も含まれている。

32. ชนม์สวัสดิ์ ชมพูนุท, “บันทึกความทรง-
จำ กรุงเทพฯ ๒๐๐ ปี,” พินาศาร,
๒๕๒๕, 328pp.

『バンコク 200 年の回顧』 ラーマ 1 世からラ
ーマ 9 世に至る、各王の時代ごとに生じた事
件、宮殿・御所・寺院の建設、および王子・王
女とその母親の名、簡単な年表を付している。

33. ชยานันท์, เกรียงศักดิ์ เกราะหัตถิ, อลง-
กต เทียบศรไชย, “ผิบุญสุชาติ แห่ง
หุบผานรก,” ๒๕๒๕, 256pp.

『地獄谷のスケッチ 似非王』 スケッチ
・コーソンキッティウオンという人物が、ラタ
ナコーシン200年祭の1982年にはベトナム、中
国、ソ連、アメリカの軍隊がタイ国に侵入し、
タイ国は滅びると予言し、逮捕された事件に関
し、この予言者とその宗教活動を非難するため
に出版した書。現代の「千年王国運動」を知る
うえでの資料となる。

34. ชัชวาลย์ ณ นคร (รวบรวม), “เกร็ดน่า-
รู้เกี่ยวกับ ๒๐๐ ปีแห่งกรุงรัตนโก-
สินทร์,” ธนบรรณ, ๒๕๒๕, 88pp.

『ラタナコーシン王朝 200 年の知識』 ラタナ
コーシン王朝の各王、王妃、大僧正、外国人顧

- 問, 歴代首相, 宮殿名を写真で列挙。
35. ชาลี เอี่ยมกระสินธุ์, “เฉลิมฉลอง ๒๐๐ ปี กรุงรัตนโกสินทร์.” ๒๕๒๕, 161pp.
『ラタナコーシン王朝 200 周年祝賀』 ラタナコーシン王朝各王の治績を簡略にまとめている。特に、現国王の父であるソンクラ親王夫妻と、その王子であるラーマ 8 世, および現国王ラーマ 9 世夫妻, さらに第 2 王女シリントーン王女の紹介に多くのページがさかれていて, 公式声明文や日常生活のスナップ写真が添えてある。
 36. เตเนียล แมกกีลาวรี, “เมืองไทยที่ข้าพเจ้ารู้จัก,” สุริยบรรณ, ๒๕๒๕, 87pp.
『私の知っているタイ国』 アメリカ人ダニエル・マクギルバリーのタイ国滞在記の一部をタイ語訳。マクギルバリーは約半世紀の間, チェンマイを中心に北タイ, 北ラオスに滞在して, 医療とキリスト教の普及に尽くしていた。
 37. น. กล้วยไม้ ณ ออยุธยา, “สองร้อยปีแห่งกรุงรัตนโกสินทร์,” ๒๕๒๔, 77pp.
『ラタナコーシン王朝 200 年』 ラタナコーシン王朝の創始者, 王宮建設, エメラルド仏寺院, ワット・ポー, バンコク市の発達などを簡略にまとめた。
 38. “ที่ระลึกสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปีในพระราชพิธีพืชมงคลจรดพระนังคัลแรกนาขวัญ,” 18pp.
Rattanakosin Bicentennial 1982. ラーマ 1 世, エメラルド仏像を紹介し, 次いで国王が船渡御される御座乗船を 1 艘ずつ写真説明。最後に 1982 年 4 月に開催された国王夫妻臨席の式典期日と慶行事表がついている。タイ語・英語対訳。
 39. ธรรมทาส พานิช, “พระแก้วมรกตของไทย,” แพรวพินิต, ๒๕๒๔, 165pp.
『タイのエメラルド仏像』 エメラルド仏像は, インドやカンボジアではなく, 南タイのチャイヤーで彫刻された仏像であるとして, それを証明するために書かれた。ラタナコーシン王朝 200 年祭を記念して, 第 3 版として出版。著者はチャイヤー出身。
 40. น. ณ ปากน้ำ, “หนังสือชุด กรุงเทพฯ สองศตวรรษ จิตรกรรม สมัยรัตนโกสินทร์,” เมืองโบราณ, ๒๕๒๕, 135pp.
『バンコク 2 世紀シリーズ ラタナコーシン王朝の絵画』 ラタナコーシン王朝 200 年間のタイ人の生活を, 描いた絵でながめる。絵は一部カラーの写真で紹介しており, 各絵には美術史家による解説がついている。
 41. แนน้อย ศักดิ์ศรี ฯลฯ, “เอกสารประกอบนิทรรศการเรื่องการเปลี่ยนแปลงของกรุงเทพฯ ในรอบ ๒๐๐ ปี: วัง วัด บ้าน ตลาด คลอง ถนน ณ ศาลาพระเกี้ยว, ๒๑ มิถุนายน-๕ กรกฎาคม ๒๕-๒๕,” โครงการคณะศิลปกรรมศาสตร์ หอศิลป์, โครงการไทยศึกษา จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 33pp. (Mimeo.)
『バンコク 200 年の変遷: 王宮, 寺院, 家屋, 市場, 運河, 道路 1982 年 6 月 21 日-7 月 5 日 チュラーロンコーン大学大講堂にての展覧会パンフレット』 チュラーロンコーン大学が調査研究の成果を展覧会で展示した際のパンフレット。調査グループと調査報告の要約。
 42. บรรเจิด อินทุจันทร์ยง, “เฉลิมพระเกียรติพระบรมราชจักรีวงศ์,” พิธีทัศน์ศาสตร์, ๒๕๒๕, 759pp.
『チャクリー王家の栄誉』 現王朝チャクリー王家の各王の王子・王女の系譜を詳細に述べ, 各王子・王女の生年月日と経歴, 享年と写真を紹介している。
 43. ประเสริฐ จันทำ (รวบรวม), “๒๐๐ ปีที่โลกร้าง,” ดอกหญ้า, ๒๕๒๕, 170pp.
『世界が崩壊した 200 年』 ラタナコーシン王朝 200 年祭を祝う時, 社会の様相が文学に与え

た影響、文学が社会に与えた影響を知るため、過去から学び現代に生かしたいという意図を持って編まれた11人の新進小説家による現代短篇小説集。

44. ปรีดี พนมยงค์, “มหาราชและรัตนโกสินทร์,” โครงการ “ปรีดี พนมยงค์กับสังคมไทย,” ๒๕๒๕, 92pp.
『大王とラタナコーシン王朝』 立憲革命の元勳と呼ばれる著者が、ラタナコーシン王朝200年に向けて、国王ラーマ1世の称号と「ラタナコーシン」という呼称について論じ、タイ国総理大臣に進言したもの。
45. พระธรรมธัชมนี (รวบรวม), “พุทธศาสนาประวัติศาสตร์รัตนโกสินทร์และราชวงศ์จักรี ๒๐๐ ปี,” มูลนิธิมหามกุฏราชวิทยาลัยในพระบรมราชูปถัมภ์, ๒๕๒๕, 277pp.
『ラタナコーシン時代の仏教史とチャクリー王朝200年』 本書は全3巻の第1巻にあたり、ラーマ1世からラーマ3世までの各時代の僧団統治、僧団内の教育、僧団の発達、一般民衆への活動を説明。
46. ยอร์จ ฮอลล์ เฟลตส์, “ดร. เรโนลด์ เฮาส์ หมอฝรั่งสามรัชกาล,” สุริยบรรณ, ๒๕๒๕, 168pp.
『3代の御世にわたって滞在した西洋人医師レイノルズ・ハウス博士』 George Haws Feltus の Samuel Reynolds House of Siam の編訳。ハウスは19世紀初期から約半世紀間、タイ国でキリスト教布教にあたった宣教師。
47. วิบูลย์ ลี้สุวรรณ, “ศิลปนาฏในสองศตวรรษ,” ปาณยา, ๒๕๒๕, 386pp.
『2世紀にわたる興味ある芸術』 ラーマ1世よりラーマ5世にわたって建設された宮殿の各所に施された、タイ美術、西洋美術、中国美術について解説。さらに、北タイにおけるビルマ美術、アユタヤー王朝末期のロブリー宮殿を、おのおの写真を挿み解説。

48. วิมล พงศ์พิพัฒน์, “หนังสือชุด กรุงเทพาสองศตวรรษ เหตุการณ์สมัยกรุงรัตนโกสินทร์,” เมืองโบราณ, ๒๕๒๕, 35pp.
『バンコク 2世紀シリーズ ラタナコーシン王朝時代のできごと』 写真と説明で、ラタナコーシン王朝のできごとを歴史的にながめる。
49. ศรีสักร วัลลิโภดม, สุจิตต์ วงษ์เทศ, “กรุงเทพมาจากไหน?,” เจ้าพระยา, ๒๕๒๕, 288pp.
『バンコクはどこから来たか?』 考古学、古代史を専門とするふたりの研究家が、バンコクに都が置かれる以前の、タイ国の都市の特徴を述べ、さらにバンコクがどんな状況であったかを説く。
50. ส. พลายน้อย, “เล่าเรื่องบางกอก สมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี,” รวมสาส์น, ๒๕๒๕, 411pp.
『バンコクを語る：ラタナコーシン王朝200年祭記念』 バンコク創成期、王宮、チャオプラヤー川の渡し場、国礎柱、バーン・モー、サムペン、ニューロード街、黄金の丘、王宮前広場、バクチ場など、バンコク旧市街の過去から現在にかけて変遷の跡を語る。
51. สิริวิวัฒน์ คำวันสา, ทองพรรษ์ ราชภักดิ์, “สงฆ์ไทยใน ๒๐๐ ปี,” เล่ม ๑ (๒๕๒๕), 353pp., เล่ม ๒ 316pp. (๒๕๒๕)
『タイのサンガ200年』 1～2。トンブリー王朝以来のタイ国仏教界の歴史を、各王の時代ごとに現代まで概観する。スリランカ、ビルマとの交流、三蔵経の結集、僧団の改革、法規制など、タイ国の僧界内部の活動とともに、政治、王制とのかかわりにも触れている。
52. สุจิตต์ วงษ์เทศ, “เสภาไพร่,” เจ้าพระยา, ๒๕๒๕, 176pp.
『平民の吟遊詩』 バンコクの歴史の底辺で生きていた人々を点描して詠んだ詩集。

53. “หนังสือชุดภาพกรุงรัตนโกสินทร์สองร้อยปี.” องค์การการค้าของกรุงสุภา. ๒๕๒๕. 392pp.

『絵でみるラタナコーシン王朝200年』 ラタナコーシン王朝200年の歴史を、絵解き文でわかり易く解説。解説文には英文の要約が逐一ついている。

54. เอกวิทย์ ณ ถलग, เสนอ นิลเดช, “พระบรมมหาราชวัง พระที่นั่งในบริเวณสวนศิवालย์, พระที่นั่งในหมู่พระมหามนเทียร ประตูและป้อมรอบพระบรมมหาราชวัง.” องค์การการค้าของกรุงสุภา. ๒๕๒๕ (๒), 56pp.

『王宮：シワーライ庭園，モンティエン宮殿，王宮の周囲の門と砲台』 主に，王宮内の宮殿と宮殿の間に配された庭園と，戴冠式その他王室の儀式に使用される宮殿の玉座，および王宮内に入る各方角の門を写真で紹介。

55. ———, “พระบรมมหาราชวัง พระที่นั่งดุสิตมหาปราสาท หมู่พระที่นั่งจักรีมหาปราสาท.” องค์การการค้าของกรุงสุภา. ๒๕๒๕ (๒), 56pp.

『王宮：ドッシット宮殿，チャクラー宮殿と，その施設』 現在は外国の大公使を迎える儀式にしか用いない王宮内の宮殿を，カラー写真で示しながら説明。タイ国の伝統建築と洋風建築との調和の美しさを示し，さらに室内装飾に中国美術の影響をみることができる。中高校生用解説書。

IV 英文刊行物

56. Steve Van Beek, *Bangkok Only Yesterday*, Hong Kong Publishing Company, 1982, 63pp.

写真によるバンコクの過去の姿を紹介。

57. The Committee for the Publication of

Historical Documents Office of the Prime Minister, *Foreign Records of the Bangkok Period up to A. D. 1932*, Office of the Prime Minister, 1982, 268pp.

ラーマ1世からラーマ7世に至る各王を紹介し，各王の時代の西洋人の見聞録を抄録。

V 学術雑誌のラタナコーシン王朝 200周年記念特集号

58. “วารสารธรรมศาสตร์.” ปีที่ ๑๑ เล่มที่ ๑, มีนาคม ๒๕๒๕, 248pp.

Thammasat University Journal, Vol. 11, No. 1, March 1982. セミナー報告として，次の諸氏の報告を掲載し，基調報告を除き各報告にはコメンテーターのコメントを付している。

ククリット・プラーモート「ラタナコーシン王朝の2世紀：基調報告」

ブッパパナート・スワンナマート「ラタナコーシン王朝の国家建設」

カノク・ウォントラガーン「バンコクの密集地区の発生と拡大」

ニティ・イオシーウォン「ラタナコーシン王朝初期の基層文化と文学」

トリーシン・ブンカチョーン「タイ小説の過去・現在・未来：若干の観点」

ウィタヤーコーン・チェンクーン「中央部農村社会の変化 1960-1980」

ソムキアト・ワンタナ「タイ労働者階級の変遷」

59. “วารสารมหาวิทยาลัยศิลปากร ฉบับพิเศษ กรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี.” 271pp.

Silpakorn University Journal, Special Issue, Vols. 4-5, December 1980 - December 1982.

スเมート・チュムサーイ「タープラ宮殿：芸術家集団とそれをめぐる話」

チョート・カンラヤーンミット「ラタナコーシン王朝200年の名匠たち」

ウィブーン・リースワン「ラタナコーシン王朝の技術者たち」

スパトラディット・ディッサクン「ラタナコーシン王朝の主要仏像」
プラディーブ・チュムボン「ワット・プラチュートッポンと刻文による教育」
ソムプラソン・ヌワムブンルー「ワット・プラチュートッポン：庶民の文学」
ピパット・ポンピーポーン「ラタナコーシン王朝初期の王立寺院」
ノー・ナ・パークナム「王城前広場の過去と現在」
アッサダーン・ポーラーノン「バンコクの水運」
チューシリ・チャームラマーン「ラタナコーシン王朝の運河の役割」
カムトーン・クンチョンほか「ラタナコーシン王朝の東岸：王都建設前より立憲革命まで」

《補 遺》

ラタナコーシン王朝200周年を記念した出版物は、1982年8月から2カ月間に蒐集して、文献目録を作成した。その後、1983年2月16日より1カ月間、再びタイ国に滞在する機会を得て、その後に、出版された刊行物、約30点を蒐集することができた。その後に出版された刊行物の特徴は、1982年4月に催された記念儀式・祭典の模様を、鮮やかなカラー写真で記録したものが数点含まれていることである。また、1982年6月に出版された記念刊行物である『タイの伝統』は、書店に出回ると間もなく品切れになったのであろう、1982年8月当時バンコクでは見出すことはできなかったが、今回、北タイのチェンマイ市内の書店で購入することができた。タイ国の出版物としては、非常な高額の書であるが、良書は値段の如何にかかわらず、またたく間に売り切れてしまうことを示している。

前回、記念刊行物はほぼ出揃ったと思った

60. “วารสารประวัติศาสตร์” ปีที่ ๗ ฉบับที่

๑, มกราคม-เมษายน ๒๕๒๕, 151pp.

Warasan Prawattisat, Vol. 7-1, January-April 1982 『タイ社会200年特集号』

サワパー・パタイヤワット「ラタナコーシン王朝1782-1982年のタイの世界観」

ソムチョート・オーンサクン「偉大なる人の反乱：南タイの千年王国運動」

デウィット・K・ワイアット「タイ社会の教育と近代化（タイ語訳）」

タンマニット・ワラーポーン「絶対王制時代におけるタイの国家運動の構造」

チョムプーヌット・ナーキーラック「ラタナコーシン王朝初期における西洋人とシャム人」

ナロン・プワンピット「タイ社会200年に関する主要文献」

が、今後に出版が予定されているものもあり、まだ遺漏があるかもしれない。それにしても、約100点にものぼる記念の出版物が刊行されたことになる。周到に準備されたものもあれば、場あたりな間に合わせのものもあるが、官界、民間ともに、この年を期して多大の資金と時間を費やして意欲的に出版したエネルギーに、まず驚く。そして、その中のいくつかは写真技術、印刷技術のレベルの高さを示し、優れた学者を動員して執筆編集すれば、先進諸国に劣らぬ良書を生み出すことが可能であることを示した。ともあれ、これを機にタイ国での出版活動がますます活気づき、良書が次々と生み出されることを期待したい。

《補遺》では、タイ語刊行物の著者名または編者名のタイ文字アルファベット順に配列し、続いて英語、フランス語刊行物を同じくアルファベット順に配列した。

1. กองแก้ว วีระประจักษ์, นิยดา หาสุนทร, “หอพระมณเฑียรธรรม.” สยามมิ่ง

สมุดแห่งประเทศไทย, ๒๕๒๕, 42pp.

『経蔵庫』 エメラルド仏寺院の中にある三蔵経を収納していた経蔵庫を写真で紹介し、かつて収納されていた經典類を解説し、経蔵庫の建築様式についても説明している。タイ国図書館協会がラタナコーシン200周年を記念して出版。

2. คณะกรรมการจัดงานสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี, “ประวัติศาสตร์กรุงรัตนโกสินทร์,” คณะกรรมการจัดงานสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี, “ประวัติศาสตร์กรุงรัตนโกสินทร์ เล่ม ๒ รัชกาลที่ ๔ - พ. ศ. ๒๔๗๕,” กองจดหมายเหตุแห่งชาติ กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 576pp.

『ラタナコーシン王朝史 第2巻 ラーマ4世-1932』 王位継承, 外交に始まり, 政治, 経済・財政, 交通・通信, 法務, 教育, 宗教などの改革, 社会・文化の変化, 国防という章に分け, 総括的に説く。

3. ———, “ประวัติศาสตร์กรุงรัตนโกสินทร์ เล่ม ๓ พ. ศ. ๒๔๗๕ - ปัจจุบัน,” กองจดหมายเหตุแห่งชาติ กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 772 pp.

『ラタナコーシン王朝史 第3巻 1932-現代』 王位継承, 民主政体の発展, 国会, 政治, 国防, 経済, 財政, 農業, 工業, 外務, 法務, 交通・運輸, 教育, 厚生, 宗教, 大学, 社会と文化の各章を関係各省が分担して現代を中心に解説。一部はローン・サヤマノンによる。写真を多く挿入。

4. คณะผู้จัดทำหนังสือภาพประวัติศาสตร์ราชวงศ์จักรีกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี, “ที่ระลึกภาพประวัติศาสตร์แห่งราชวงศ์จักรี กรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี,” บริษัทพิมพ์ทองทรัพย์พลายส์ จำกัด, ๒๕๒๖, 1, 032pp.

『ラタナコーシン王朝200年のチャクリー王統史図解特集』 歴代の各国王, 現王室, 歴代の僧正, バンコク市内の有名寺院・名所, タイ貨幣, 郵便・通信, 新聞, 鉄道・電車, 学校, 軍隊, 芝居, 儀式等々を写真で示しながら各専門家が解説。

5. กึกกฐ์ ปราโมช, พิสิฐ เจริญวงศ์, สุขเมธ ชุมสาย ณ อยุธยา, โชติ กัลยาณมิตร, “ลักษณะไทย เล่ม ๑ ภูมิหลัง,” ธนาคารกรุงเทพ จำกัด, ๒๕๒๕, 418pp.

『タイの伝統 第1巻 背景』 全4巻のうちの第1巻である。ククリット・プラーモート「タイ社会」, ピシット・チャルーンウォン「有史前の人間世界」, สเมต・ชุมสาย「水」, ชอร์ต・คันธะยันมิตต์「伝統的タイ建築」が収められている。B4判にカラー写真, 地図, 図版を豊富に用いた解説書。特に, タイ国の考古学をカラーの地図, 写真, 図版および引用文献を示したピシットと, 水に対するタイ人の世界観, 水の文化, 村落や町の形成を説くスメートは, ユニークかつ体系的な解説をし, 本書がタイ国を描く近來にない優れた書となっている。第2巻以降の出版が待望される。このシリーズは, バンコク銀行がラタナコーシン200周年を記念して出版し, タイ・ワットナーパーニット社が印刷を引き受けている。編集・印刷において, タイ国が日本や欧米に劣らぬ技術を有していることを示す書であろう。

6. ฉวีงาม มาเจริญ, “พระราชพิธีฉลองพระนครครบ ๑๕๐ ปี,” กรมศิลปากร, ๒๕๒๕, 237pp.

『建都150周年記念御大典』 50年前のバンコク建都150周年記念の儀式の模様を, 当時の記録をもとに描いた。ラーマ1世橋竣工儀式, エメラルド仏寺院の修復が中心となる。ラタナコーシン王朝200周年記念としてまとめられた。

7. นางเยาว์ กาญจนจारी (รวบรวม), “พระราชพิธีสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐

ปี.” สำนักราชเลขาธิการ, ๒๕๒๕, 230pp.
Royal Ceremonies for the Rattanakosin Bicentennial. 1982年4月のラタナコーシン王朝200周年祝典の、王室を中心とした儀式をカラー写真で克明に記録している。歴代国王像に参拝、バラモン儀式、エメラルド仏像参拝、シャム神王像参拝、国礎柱の参拝などが含まれている。タイ・英対照の説明。

8. บริษัท บิซซิเนส Pubblikeชั่นส์ (ประเทศไทย) จำกัด, “ที่ระลึก ๒๐๐ ปี กรุงรัตนโกสินทร์.” บริษัท บิซซิเนส Pubblikeชั่นส์ (ประเทศไทย) จำกัด, ๒๕๒๕, 634pp.

『曼谷建都200周年記念特刊』 *Bicentennial Souvenir*. タイ語、英語のビジネス雑誌を出版する雑誌社が編集した記念号。最初の約270ページがタイ語、次いで130ページが中国語、残りの200ページが英語によってタイ国の王朝史を紹介。説明はおのおの異なり、中国語文はタークシン王から説く。

9. ประไพศรี เทพหัสดิน ณ อยุธยา, “กรุงเทพของเรา.” บริษัท โกตก (ประเทศไทย) จำกัด, ๒๕๒๕, 53pp.

『我がバンコク』 フィルムとカメラのコダック社（タイ国）が、タイ国政府より200周年記念祭典を写真で記録する会社選ばれ、またラタナコーシン200周年を祝してフォト・コンテストを催して、入賞作を紹介。200周年を祝うバンコクのさまざまな姿が美しい写真で紹介されている。

10. ประมวญ ดิควินสัน, “ดวงใจคืนถิ่น.” แพร่พิทยา, ๒๕๒๕, 292pp.
Heart Comes Home. タイ族の発祥から現代に至る民族史を描く。
11. ปราโมทย์ ทศนาสุวรรณ, “รัตนโกสินทร์ ร. ศ. ๒๐๐.” สกุลไทย, ๒๕๒๕, 216pp.

『ラタナコーシン暦200年』 カラー写真を挿みながら、ラタナコーシン王朝200年のゆかりの名所旧跡を紹介、解説する。

12. ไพฑูรย์ วงษ์เทศ, “ฉันจึงมาหาความหมาย: วรรณกรรมสมัยสมพาสกรุงรัตนโกสินทร์ปีที่ ๒๐๐.” เจ้าพระยา, ๒๕๒๕, 378pp.

『ラタナコーシン200周年文集』 著者の友人（学者、評論家、作家）を戯画化して描く。

13. ราชบัณฑิตยสถาน, “พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน พ. ศ. ๒๕๒๕.” อักษรเจริญทัศน์, ๒๕๒๕, 930pp.

『2525年（西暦1982年）王立学士院版タイ語辞典』 ラタナコーシン王朝200周年を記念して32年ぶりに新版を刊行した。ページ数では約100ページ少なくなっているが、A5判、見出し語とページ数字を緑色で配して2色刷りにし、辞書用の用紙を用いて、表紙は軟らかくし、ひき易く、みやすく工夫されている。本文内容も、熟語を多く取り入れ、英語からの借用語、最近の訳語、新語も多く加えられた。動植物名には学名を加え、古語には古典文学、年代記などからの出典が明らかにされている。しかし、この辞典でもすでに間に合わなくなった訳語・新語が生まれている。

14. วิโรจน์ ศรีสุโร, “เฝ้าพระเกียรติ ฉลอง ๒๐๐ ปี รัตนโกสินทร์.” เจ้าพระยา, ๒๕๒๕, 122pp.

『ラタナコーシン王朝200周年を祝して御稜威をたたう』 チャクリー王朝9代の各国王をたたえる詩集。

15. ส. ศิวรักษ์, “เจ้า-ข้า ฟ้าเดียวกัน.” เกสศไทย, ๒๕๒๕, 395pp.

『主従は天下をともにする』 著者がラタナコーシン王朝200周年に寄せて講演した講演録や、評論を集めて1冊に編集。

16. สมบัติ จำปาเงิน, “กรุงเทพฯเมื่อ ๒๐๐

- ปี.” บรรณกิจ, ๒๕๒๕, 176pp.
『200年前のバンコク』 バンコク建都200年に寄せて, 市内の名所旧跡について述べた随筆集。
17. สันต์ ตราชู, “เฉลิมรัฐนัทรแก้ว แก้วแผ่นดิน,” กรุงเทพมหานคร, ๒๕๒๕, 170pp.
Rattanakosin Bicentennial. ラタナコーシン王朝200年祭の祝典をカラー写真で収録。特に, チャクリー王宮, エメラルド仏寺院の夜景, 国王夫妻の船渡御, 市内の祝賀パレードなどの写真をタイ・英両語で説明。
18. เอนก นาวิกมูล, “หนังสือชุด กรุงเทพมหานครสองศตวรรษ การแต่งกายสมัยรัตนโกสินทร์,” เมืองโบราณ, ๒๕๒๕, 170pp.
『ラタナコーシン王朝時代の衣服』 19世紀初めより現代に至る服装の変遷史。特に上流階級が主になる。
19. Larry Sternstein, *Portrait of Bangkok*, Bangkok Metropolitan Administration, 1982, 152pp.
本書は *Journal of Siam Society*, Vol. 67, Part 2 (1979) の論文 “Krung Thep at one hundred: Scape and grid” をもとに, さらに補筆, 写真・地図を豊富につけ加えた。特に, 近年のバンコクの人口増加, 市域の拡大とバンコク市の未来図を描いている。
20. Pharani Kirtiputra, *Art Objects Pertaining to the Chakri Dynasty*, The Office of Her Majesty's Private Secretary, 1982, 133pp.
チャクリー王朝200年の間に作り出された美術品, および外国からもたらされた美術品の一部を, カラー写真で紹介。中国の陶磁器, 翡翠の細工が半分を占め, あとの半分がタイ国の金銀細工などで占められている。
21. The Sub-committee for Documentary Compilation Committee for the Rattanakosin Bicentennial Celebration (ed.), *Rattanakosin Bicentennial: Life and People*, Nonsuch Co., Ltd., 1982, 459pp.
ラタナコーシン王朝以前のタイ国, チャクリー王朝 (即ちラタナコーシン王朝) 歴代の国王, バンコクの成立, 国礎柱, 王城前広場, 黄金の丘, 巨大ブランコ, 現代のバンコク, タイ国の仏教, 芸術, 工芸, 生活と社会, 経済, 福祉, 農業, 工業, 開発, 財政, 交通・通信, 科学技術などをおのおの専門家が分担執筆。現代タイ国の各界の状況を要領よく紹介。写真も多い。
22. Thida Boontham (ed.), *Bicentenaire De Bangkok*, 1982, 119pp.
フランス語によるタイ国の詩歌, 文学, タイ国近代史, 美術, 仏教の小論を集め, バンコク建都200周年を記念して出版。
- 追加
1. คณะผู้ดำเนินการวิจัย, “การศึกษาวิจัยทางประชากรและสังคม ๓ ทศนะของชาชนบพหังหวัดตาก ต่อการย้ายถิ่นเข้ากรุงเทพมหานคร: การศึกษาในวาระสมโภชกรุงรัตนโกสินทร์ ๒๐๐ ปี,” สถาบันวิจัยประชากรและสังคม มหาวิทยาลัยมหิดล, ๒๕๒๕, 111pp.
『人口と社会の研究 3. バンコクへの移住に関するターク県農民の意識: ラタナコーシン200年記念の研究』 1982年4月の20日間, ターク県の農民15~45歳の200人に面接調査した結果報告。地方の農民のバンコクへの思いと, 体験にもとづく感想などが窺える。
2. คณาจารย์ผู้วิจัย, “สภาวะทางเศรษฐกิจสังคม และประชากรของกรุงเทพมหานคร รายงานการวิจัย เล่ม ๑-๒,” จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, ๒๕๒๕, 183pp., 307pp.

『バンコク市の経済・社会・人口の様態 研究報告 1-2』 バンコク市民の人口構成, 職業, 国籍・民族籍, 宗教, 出生地, 食事と衛生, 収入と支出, 貯金と借金等々にわたり, アンケート調査し集計した統計表を第2巻で示し, 第1巻で調査結果をまとめている。

3. ท. กล้ายไม้ ณ อยุรยา. “หลักเมืองกรุงรัตนโกสินทร์,” คณะอนุกรรมการจัดทำเอกสารภาษาไทย ในคณะกรรมการเอกลักษณ์ของชาติ สำนักเลขาธิการนายกรัฐมนตรี, ๒๕๒๕, 31pp.

『ラタナコーシン王朝の国礎柱』 国礎柱の伝統的な考え方と, バンコクの国礎柱の由来, およびその前に配されている神像について解説。

4. นวลจันทร์ รัตนกร, ชุติมา สัจจามันท์, มารศรี ศิวัรักษ์. “ปกิณกะเรื่องหนังสือในสมัยรัตนโกสินทร์,” ๒๕๒๔, 283 pp.

『ラタナコーシン王朝の書物雑記』 『三印法典』に始まり, 歴史的に価値ある辞典類, 雑誌,

新聞, 教科書について解説。またタイ国内の図書館を紹介。最後に著作権, 印刷法についても解説。

5. ประยูร ลิทธิพันธ์, “กรุงเทพฯสองร้อยปีแห่งราชวงศ์จักรี: บันทึกเหตุการณ์สำคัญ สมัยกรุงรัตนโกสินทร์ พ.ศ. ๒๓๒๕ ถึง พ.ศ. ๒๕๒๕,” ลือสาสน์, 404pp.

『チャクリー王朝におけるバンコク 200 年 : 1782年-1982年間のラタナコーシン時代の重大事件の記録』 200年の間の各王の時代に生じた主な事件というより, 王の著作や王室行事を解説紹介。

本稿は, 昭和57年度文部省科学研究費補助金(海外学術調査)による研究「東南アジアの政治的生態空間の成立と展開に関する研究」(代表者: 土屋健治) の海外学術調査成果の一部として執筆されたものである。